

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名	生活・健康系コース (技術・工業・情報)	記載責任者	伊藤 陽介
-------	-------------------------	-------	-------

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

## 1. 目標・計画

技術・工業・情報コースでは、ものづくりと情報に関わる専門的な知識・技能と教育実践力を兼ね備えた教員養成を目標とし、以下の措置をとる。

- ①各授業における到達目標を明確に示し、公平かつ厳正な成績評価を行う。
- ②日本産業技術教育学会主催の「技術科教員指導能力認定試験」を積極的に広報し、卒業・修了見込者に受験を勧める。
- ③コースに所属する学生の学修状況をクラス担当教員や研究指導教員が主体となってコース内で情報共有し、きめ細かく指導する。

## 2. 点検・評価

- ①については、各授業における到達目標を明確に示し、公平かつ厳正な成績評価を行った。
- ②については、日本産業技術教育学会主催の「技術科教員指導能力認定試験」を本コース大学院生が2名受験し、うち1名が合格した。
- ③については、クラス担当教員と研究指導教員が主体となってコース内で学修状況を情報共有し、きめ細かく指導した。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

- ①大学院生の学部授業の履修者数が増加しているため、安全性の確保と教育効果を高めるように施設・設備などの要望を行う。
- ②卒業研究・修士研究に取り組む学生に対して、主指導教員と副指導教員による教育・就職支援体制を維持する。
- ③留学生の増加にあわせて大学院生室等の利用方法を見直し、留学生が研究しやすい環境を整える。

## 2. 点検・評価

- ①については、本コース各教員より安全性の確保と教育効果を高められるように施設・設備などの要望を行った。
- ②については、主指導教員と副指導教員による教育・就職支援体制を取ることで、きめ細かい教育研究指導を実施できた。
- ③については、大学院生室の机の配置などを見直し、留学生が研究に取り組みやすい環境づくりを推進した。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

①教員各人の研究環境の改善に努め、必要に応じて教員相互の研究交流を促進する。

### 2. 点検・評価

①については、大学における研究活動や各種学会活動などを通して、教員相互の研究に関する交流が進化している。しかし、恒常的に実験室等の研究設備が不足しており、研究活動のために会議室や図書資料室等の臨時使用が続いている。全学的な視点からの検討が望まれる。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

①学生の定員確保、就職支援など、大学の重要課題の解決に貢献する。

### 2. 点検・評価

①については、大学院の定員確保のためにコース独自のパンフレット作成、大学等訪問、入試方法の継続的な見直しなどを行った結果、平成25年度入学の大学院生数は生活・健康系コース全体で23名(内、技術・工業・情報コース 7名)となり、募集人員には満たなかったが、大学の重要課題の解決に貢献した。就職支援では、コースでの協議をもとに、各教員がゼミ・講義等を通して教員採用試験対策を意識した教育を実施した。その結果、学部生では本学大学院進学1名を除き、全ての卒業生が教職に就くこととなった。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

①附属学校における教育実習の支援や共同研究等を推進し、連携協力関係を維持する。  
②教員免許状更新講習及び学校教員等を対象とする研修を実施する。  
③コースに所属する留学生と日本人学生の交流を促進する。

### 2. 点検・評価

①については、本コース教員が教育実習中に附属学校や教育実習先を訪問し、指導助言を行った。また、附属中学校が開催する各種の研究会には多くの教員が参加し、附属中学校との共同研究や授業支援を実施した。  
②については、教員免許状更新講習、公開講座、産業・情報技術等指導者養成研修等を実施した。  
③については、本コース在籍中の大学院生4名と研究生1名の留学生との積極的な国際交流を推進した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

情報基盤センター兼務の本コース教員を中心として情報基盤センターの運営に貢献した。